

第27回 (2017年)

全国花のまちづくりコンクール 受賞者 写真集

第27回 (2017年) 全国花のまちづくりコンクール

花博の理念を継承してこの事業を推進しています。



提 唱

農林水産省
国土交通省

主 催

花のまちづくりコンクール推進協議会
公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会 公益財団法人都市緑化機構
一般財団法人日本花普及センター 公益財団法人日本花の会

後 援

全国知事会 全国町村会 全国市長会 **NHK** (一社)日本新聞協会 (一社)日本経済団体連合会

協 賛

(一社)日本花き生産協会 (一社)日本花き卸売市場協会 (一社)日本生花商協会
(一社)JFTD (一社)日本インドア・グリーン協会 (一社)日本種苗協会
(公社)日本フラワーデザイナー協会 (公社)日本家庭園芸普及協会 (公財)日本さくらの会
(一財)日本緑化センター (一社)日本植木協会 (一社)日本公園緑地協会 (一社)日本公園施設業協会
(一社)日本造園組合連合会 (一社)日本造園建設業協会 (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会
(一社)沖縄美ら島財団 (一財)公園財団 全国公園協会協議会 (一財)日本造園修景協会
(一財)地域活性化センター (公社)日本観光振興協会 (一社)日本ホテル協会

協 力

KOMATSU

花のまちづくりコンクール推進協議会

事務局 公益財団法人 日本花の会・コンクール係
〒107-8414 東京都港区赤坂 2-3-6 コマツビル TEL 03(3584)6531 FAX 03(3584)7695
<http://www.hananokai.or.jp>

表紙の写真 第27回 全国花のまちづくりコンクール大賞受賞作品より

左上 新地町立駒ヶ嶺小学校
左下 山崎 久夫

右上 藤枝市
右下 すみよいカルチャータウンを作る会
コミュニティガーデンふるる



花のまちづくりコンクール推進協議会

団体部門：新地町立駒ヶ嶺小学校（福島県新地町）



復興とその先を見据えた花飾り

1976(昭和51)年に緑の少年団が結成されてから緑化活動に取り組むようになり、40年間続けています。2001(平成13)年に校舎が新築してからは緑の少年団の活動を受け継ぎ、校内の花壇や通学路沿いで花壇づくりをしています。

東日本大震災の被災直後から屋外活動が規制され、緑の少年団の活動も思うようにできずにはいましたが、児童の明るい心を取り戻すため、保護者とともに放射線を正しく理解しながら自分たちができる花いっぱい環境づくりに取り組んでいます。現在は地域の人と一緒に正門前の道路沿いの花壇づくりを中心に活動しながら、食育にもつながる稲作づくりなど、地域との結び付きをさらに深めることや美しい花を育て、その花々によって地域も学校も美しくなり、心も豊かに育むことを目指しています。

花のまちづくりの普及や地域のコミュニティづくり、世代を越えた交流などをさらに実践していこうとする取り組みが大変高く評価されました。

市町村部門：藤枝市(静岡県藤枝市)

いつも、どこでも、どんなときも、花でつながる・ふじえだ花回廊



藤枝市は静岡県のほぼ中央に位置し、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、市内には蓮花寺池公園や瀬戸川左岸の2kmにおよぶ桜堤など、季節ごとに花が楽しめる名所があります。

本市の花のまちづくりの始まりは、60年前の国体開催を契機に設立した藤枝市花の会の活動にまで遡ります。1973(昭和48)年にはフジを市の花に制定し、花いっぱい運動と藤の里づくりを進めてきました。これらの活動を礎に、2015(平成27)年に市の重点施策となる花回廊基本構想をつくり、「いつも、どこでも、どんなときも、花でつながる」をコンセプトにした「ふじえだ花回廊」の活動が加わりました。これにより様々な花回廊事業が多目的、多面的に推進されています。事業展開にあたっては市民団体からなるふじえだ花回廊推進協議会が組織され、市民ぐるみの推進体制が整い、「まち美化里親制度」の52団体の活動とも連携して、花のまちづくりが拡大・発展しています。

安心・安全な市民生活や人口増加にも寄与するなど、花の社会性が存分に発揮されており、市民ぐるみの花のまちづくりは大変高く評価されました。

個人部門：山崎 久夫（富山県朝日町）

ふるさとの花咲かおじさんが創出した「春の四重奏」



チューリップの球根と米作の農家で、2003(平成15)年頃より約4haの農地で活動を始めました。残雪の朝日連峰を背景に舟川堤防沿いに1.2kmの桜並木が咲き、同時に1haのチューリップ畑と3haの菜の花畑を加えた春の花の風景づくりに尽力しています。この風景は「春の四重奏」と称して、県内外や海外からも合わせて3万人以上の見学者が訪れます。春は訪れる見学者のために、駐車場の整備や送迎シャトルバスの運行、冬は桜並木をイルミネーションするなど、町の協力と支援体制も整っています。チューリップの開花期と色合いを考えた品種選択や春以外の集客に向けたJA青年部の協力による田んぼアートづくり、昨年から秋にも花が楽しめるようにと有志60名とともに彼岸花の球根を植え、3年間で700mに延長するなど活動は面積や場所だけではなく、組織的にも発展・向上を続けています。

雄大な景観形成による交流人口の拡大や観光振興など、この活動は朝日町や富山県の地域活性化にも大きく貢献しており、大変高く評価されました。

団体部門：すみよいカルチャータウンをつくる会 コミュニティガーデンふるる(兵庫県三田市)

地域住民の憩いの場として愛されるコミュニティガーデン



ニュータウンの一角にある3,200㎡の遊休地を兵庫県から借り受け、2005(平成17)年からコミュニティガーデンの活動を始めました。活動当初は何もないところからスタートしましたが、今ではコミュニティガーデンが地域に根付き、行政等の協力も得られています。

活動は親子での共同作業を基本とし、地域のお年寄りや子育て世代の人たちとも一緒になって、花壇づくりや花木の管理がされています。ガーデン内の小物やオブジェ、巣箱なども会員の手作りで、花と相まって温かみのある空間を醸し出しています。会では住み良いまちを目指して活動し、子どもたちにはふるさとしての愛着心が育まれています。2006(平成18)年から「三田花みどりネットワーク」の一員となり、オープンガーデンとしても開放して見学者にも楽しまれています。

何もないところから始めた遊休地のガーデニングが、月日を経るにつれ心地よい空間をつくりだしました。いつのまにか人が集い、子どもたちの笑顔があふれる地域の憩いの場となり、住民の思いが詰まったコミュニティガーデンに変貌させたことは、大変高く評価されました。



浦戸諸島「海と花の物語」(宮城県塩竈市) 団体部門

過疎と高齢化が進む浦戸諸島(日本三景の松島に属する4島)を花で繋ぎたいという想いで活動が始まりました。その活動は東日本大震災で寸断されましたが、2011(平成23)年秋には再開、秋植え球根を主体とする花のまちづくりに取り組んでいます。花仲間への呼び掛けや積極的な情報発信を通じて、島内のみならず県外から多数の支援者が作業に訪れます。また、屋食会や島巡りウォークなどの交流を通じて島の魅力が発掘され、家族連れで再訪する人も多く、島に新たな風が吹き込まれています。

島を印象付ける菜の花(白菜純粋種の種子生産)と海の景観が調和した美しい風景が創出され、人々の心を和ませています。世代や地域を越えて誰でも参加しやすい仕組みにより、花の縁で人と人が繋がり、地域の魅力が発掘され、地域の振興や活性化の成功事例として高く評価されました。



NPO法人 大田・花とみどりのまちづくり(東京都大田区) 団体部門

(財)大田区公園緑地振興公社の解散を受け、当時の登録ボランティアが2002(平成14)年に立ち上げたNPO法人で、区から管理委託を請けた花壇を中心に花のまちづくりに取り組んでいます。

きめ細やかな手入れによって見事な花の景観が維持され、区や住民からの評価が上がるにつれて活動場所が広がっており、花壇以外にも区民農園や園場、関連施設の管理運営、児童館や保育園、地域イベントでの普及啓発活動にも取り組んでいます。役割分担や月1回の会報、運営方法に多くの工夫が見られ、誰でも関わられて、参加者に負担が少ないボランティア活動の仕組みが完成しています。

活動は自立したボランティア組織として一つの完成形とも言え、市街地において景観の向上ばかりでなく、コミュニティの再生、高齢者の健康づくりに貢献しているなど、都市地域における先駆的な成功事例として高く評価されました。



長岡市立山本中学校(新潟県長岡市) 団体部門

1987(昭和62)年の創立40周年に、記念花壇が創設されたことを機に花壇づくりが活発化しました。その後、中越大地震(2004年)をきっかけに、中学生が主体となった先導的な緑化運動となり、学校の積極的な指導・協力のもとに活動が継続しています。

生徒54人、職員16人の小規模校で「花と対話する山中生」を合言葉に、花を介して地域の活性化に貢献することを目標に掲げ、校内や通学路および学区内など、約600㎡で花壇づくりをしています。活動を通じて他を思いやる心や協力、責任感の育成など、人づくりを図りながら地域のコミュニティづくりも意図的に、「花のまち やまもと」のイメージアップにつなげています。

地域での花壇活動や交流を通じて、地元との絆を深めながら活動範囲を広げ、地域とともに花と関わる活動が高く評価されました。



社会福祉法人 浄英会 長生保育園(新潟県長岡市) 団体部門

日々忙しい保護者と一日の大半を園内で過ごす園児たちの気持ちが、花により安らぎ、和むようにと1989(平成元)年から花づくりをしています。

園舎正面は園児とともに地域の方にも親しまれるように、季節感とスケール感のある花で飾り、園周辺では四季折々に花が途切れずに咲くように、花木や多年草なども取り入れています。人の気持ちを和らげ、地域、子どもたち、保護者、職員が花を介した会話などにより、園の活動に理解が深まるようにしています。また、園児は種子から花を育てることにより、花が咲く不思議を経験し、五感を育む活動となるよう心掛けています。

春には園庭を公開し、保護者だけでなく地域住民との交流を積極的に図るとともに花育の理念と行動が確立され、理念に基づいた取り組みとして、花の加工装飾や食育なども取り入れた多面的な活動は高く評価されました。



越前市南地区自治振興会(福井県越前市) 団体部門

総距離にして約5kmの街路樹の植栽樹を中心に学校や公園、公共施設などでシランの植栽や苗の配布、花壇づくりに2010(平成22)年から取り組んでいます。

それまでは空地に雑草が繁茂しごみの不法投棄も目立ったため、環境美化を目的に花苗などの配布活動を行っていましたが、シランを株分けで増やしていく緑化活動に転向して、地区自治振興会が企画立案を担いながら活動をするようになりました。2012(平成24)年からは毎年紫式部公園での「紫蘭まつり」を企画・開催して、活動の定着を図るとともに他のイベントにも参加して相互交流することでシランが地区全域に広がりました。

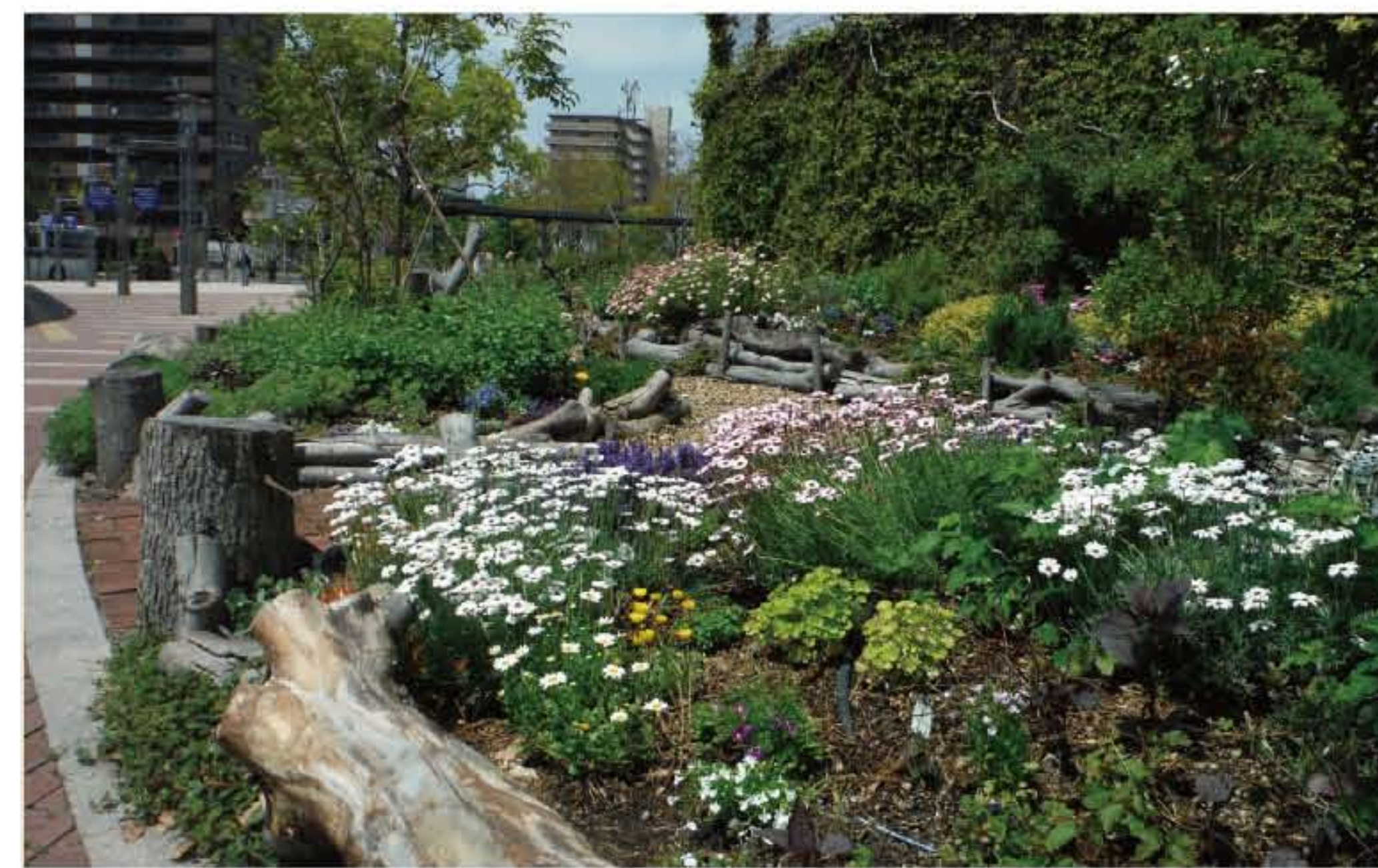
容易に栽培できる日本古来種のシランと地元ゆかりの紫式部をつなげ、地区の特色や活動の継続、拡大を目指した先進的な取り組みの事例として高く評価されました。



神原町花の会(花美原会)(静岡県浜松市) 団体部門

町の誕生50周年を機に住民が「神原町まちづくり構想」をつくりました。この構想の中で「花と緑の町づくり」が謳われ、2007(平成19)年に会をつくり活動が始まりました。当初は町会の活動と連動したこともあり、休耕地を利用した大面積の花畑や花壇を作りましたが、5年目からは場所と体制を集約して、現在は1,500㎡の「花と緑いっぱい区域」で、40人の会員が花畑や花壇づくりをしています。

四季絶えることのない花が町の一角を彩り、地域との一体化を常に意識した活動は、会の目的である「ボランティア活動により花と緑いっぱいの笑顔あふれるまちづくりを目指すとともに、協同活動を通じて町民相互の親睦と融和を図る」を実現させており、今では会の活動がまちづくりの中核と推進役を果たしています。自発的なこの活動は花のまちづくりの原点ともいえ、市民活動の手本ともいえる素晴らしい活動として高く評価されました。



草津市ガーデニングサークル「グラスシー」(滋賀県草津市) 団体部門

「ガーデンシチュエーション」を目指す草津市が、市民参加型のまちづくり事業の説明会や講座、研修旅行を開催し、これに参加、賛同した市民が、ガーデニングによるまちづくりを広げる団体として、2013(平成25)年に会をつくりました。

市内の要所につくった市民参加型のガーデンが主な活動場所、スポット景観として市のイメージを特長づけています。約200人のメンバーが「無理なく何時でも」をモットーにガーデニングを楽しみながら活動し、それ以外にもイベントや講座、情報提供等が盛り込まれているガーデニング通信を発行して、会員間の情報共有を図り円滑な運営がされています。また、地区の幼児や小中学生、さらには高齢者も加わり、花育や園芸福祉、園芸療法の分野まで、世代交流を含めた自由参加型の取り組みも始まっています。

行政や活動している施設と役割分担などの仕組みづくりに課題はありますが、メンバーの継続的な尽力がまちの景観づくりに寄与しており高く評価されました。



相場 真江・相場 毅正(群馬県太田市) 個人部門

2000(平成12)年に自宅前にブティックを移転したのをきっかけに、お店以外に地域の方が憩える場所をつくりたいとの思いから、自宅前の広い敷地(3,300㎡)に親子でバラ園をつくりました。その後、親戚や地域住民などの協力が得られ、今では100種類300本を超えるバラの他、バラと調和する花木や草花類が植えられ、地域の憩いの場として利用されています。園内には手作りの休憩施設が併設されていて、近くの高齢者施設の利用者も訪れ、季節の花を楽しんでいます。バラの時期には若い感性を活かした地域住民も楽しめるイベントが開催され、地域の活性化にもつながっています。

築150年以上の日本家屋の母屋と和洋・歴史のある庭の調和が図られ、各種のイベントやバラ園を通じて地域住民との交流が盛んに行われ、地域おこしの活力剤となっていることが高く評価されました。



黄金自治会(宮城県涌谷町) 団体部門

2013(平成25)年から4年間、国道346号線沿い(2.5km)で花のまちづくりに取り組んでいます。東日本大震災後、助け合いの共同生活を背景に自治会が設立されることになり、その目的を達成する取り組みの一つとして花壇づくりが始まりました。自治会や子ども会、老人会、高校、事業所など、幅広い世代が連帯した延べ593人の活動です。「行政区の住民が連帯感を高め、共同活動を行うことにより、健全で良好な地域社会の維持及び形成に資すること」を目的に花壇づくりやラベンダーロードづくり、プランターの設置などを進めています。花を通じて地域コミュニティが再生して世代間の交流が活発化し、歴史や豊かな自然環境を後世へ継承するとともに観光への寄与も目指した活動を展開している点が評価されました。



十文字環境美化を考える会(秋田県横手市) 団体部門

交通の要衝として発展した十文字町ですが、住民の高齢化や人口減により空き家や休耕地が増加、同時にゴミや雑草が目立ち始めてきたことを危機感として、2008(平成20)年に会をつくり、人通りの多い場所の空き地を花壇にして町を明るくする活動を始めました。道の駅が出来たことや国道沿いの河川改修などで遊休地が生じ、花壇づくりができるようになったことで、花壇は点から面へと広がりました。また、ふるさと教育の一環として、小学生とともに国道沿いに桜並木を植栽し、集落の人たちが育成・管理を行い、将来を見越した景観形成にも取り組んでいます。会員以外の有志や団体、住民の協力を得ながら、活動場所を JR 駅前、老人ホーム、保育園など町内各所に広め、花のまちづくりと地域の活性化を目指した活動が評価されました。



島本町緑と花いっぱい会(大阪府島本町) 団体部門

町内の役所周辺、島本駅前など花壇5ヶ所320㎡、コンクリートポット20基による花のまちづくりを1981(昭和56)年より36年間活動しています。町財政が厳しい時期に町長から「活気がある明るい町にするためには何をしたらよいか考えてほしい」という提案があり、自治連合会、建設業協会などが協議した結果、住民ボランティアによる市内の緑化活動が採択され取り組みが始まりました。「みんなで育てよう、緑と花の島本町」を合い言葉に、通りがかる人や駅を利用する人の心を和ませています。一般的な花壇と珍しい花や秋の七草などを咲かせるテーマ花壇などに分けて花づくりがされています。町有地を利用してフジバカマを植え、アサギマダラの観察会や勉強会を開くなど、花のまちづくりに関連させて生態系保全などを加えた取り組みも評価されました。



東古瀬こども園(兵庫県加東市) 団体部門

農村地域にある保育園で園児85人と職員20人が、園庭や園庭外に180基のプランターで花飾りするなど、1980(昭和55)年から活動しています。活動のきっかけは「手をつなぐ花の会」という保育について学ぶ講習会に参加し、そこで土づくりや腐葉土作成、苗木の育成など、その時に学んだことを園に持ち帰り実践したことが始まりです。現在は園の方針として、豊かな自然環境をいかして四季折々に変化する草花や自然を通して、豊かな感情や感性を育てる場として活用し、生命の大切さを学ぶ機会と情操教育の一環として実践できる場として位置付けています。小規模でありながら園の周りや花や緑のうまく利用し、園児たちの五感を通じて感性を磨く情操教育の進め方などが評価されました。



東海村立白方小学校(茨城県東海村) 団体部門

全生徒576人、全職員40人の小学校で、学校内の花壇1,000㎡の他、花苗の一部を高齢者施設や幼稚園などに提供しています。校内に古墳群の一部が点在することから、古墳を保存しながらその周りに「いにしえガーデン」と称して花壇づくりをしています。1万本の花苗は、種まきを栽培委員会が中心となって行い、定植や花壇づくりは全校生徒で取り組んでいます。また、花苗は体育祭などに参加した地域住民にも配られるなど、花を通じた地域との交流も行われています。小学校では、花壇づくりは花の美しさや自然、歴史を慈しむ心を育てる情操教育の一環として位置づけられています。また、地域に学校の花壇を開放することで、世代間交流が図られるなどの成果が見られ、一連の活動が評価されました。



習志野台団地自治会 花愛好会(千葉県船橋市) 団体部門

「第24回全国都市緑化フェアふなばし」(2007年)を開催した会場のアンデルセン公園までのアプローチで、花壇づくりに協力したのをきっかけに会をつくり12人で活動しています。UR都市機構との共同花壇として船橋市の美しい街並みづくりの一環となるように取り組み続け、歩道に面した5箇所で、居住者や通行人々に和み、憩い、愛しむことを目標に花壇づくりをしています。団地のケヤキ等の大量な落葉を利用して腐葉土をつくり、土づくりから力を入れているので、花壇の花はいきいきと咲いています。近年では住宅棟前の空き地にミニ花壇を作って楽しんでいる居住者が増え、活動の波及効果も見られます。



島原市立第三中学校(長崎県島原市) 団体部門

市内の農村地域にある生徒数158人、教職員27人の中学校で、学校の敷地内で200㎡の花壇や花のコンテナのほか学校の周囲200mで花壇づくりを行っています。27年以上前に島原市内にある他の中学校が、長崎県が主催する花壇コンクールで最優秀賞を受賞したことに触発され、花に囲まれた学校を目指して活動が始まりました。以来、学校を花いっぱいできれいにするにより、生徒の情操を育むことを目的に花壇活動を続けています。全生徒や教職員、敬老会などが一体となり種から育てた花苗で花壇づくりを行い、花をキーワードに地域との交流が広がり、他の小中学校にも潤い豊かな環境のお手伝いをしている活動が評価されました。



市山 由美子(富山県砺波市) 個人部門

豪雪地帯ならではの屋敷林という景観に合わせた宅地一画1,000㎡に、椿・水仙・ジャコウ・ダリアなど花中心の周辺景観や環境に合う草花を選び、「自然風放任サイゴガーデン」をつくりました。ローコストを心がけた愛・楽・遊がモットーの花壇づくりは、地域の花壇づくりの参考になっています。自宅の花壇以外に、地域のグリーンキーパーに23年間登録しており、地区の花と緑事業や環境保全事業を手伝いながら、近年では地区会館前の江波女性グループとも連携し活動を広げています。地区内の高波花街道の花飾りで、主導的役割で関わっている環境保全活動のスイセンなどを推し進める取り組みに10年間貢献するなど、町への奉仕と住民同士の絆づくりに尽力し取り組んでいることが評価されました。



中丸子南緑道を守る会(神奈川県川崎市) 団体部門

二ヶ領用水を埋めた緑道(2,500㎡)で1979(昭和54)年から38年間花壇づくりに取り組んでいます。小学校に隣接していることから、街並みが荒廃してきた状況を憂い一人人が花壇づくりを始めました。その賛同者が徐々に増え、行政とも良好な関係を築きながら24名の会員で活動を続けています。活動目標には、①地域住民への安らぎ・憩い・癒しの提供、②常時10種類の開花、③「自慢の花々(勿忘草・藤、紫陽花、桜草)」の育成、④地域社会の交流の深化・体験学習の場の提供が掲げられ、四季折々の花が咲く公園として市民に利用される他、保育園や小学校の学習の場としても積極的に活用され始めています。自立した取り組みで負の遺産が地域の資産に生まれ変わり、地域コミュニティの再生や活性化にも寄与した市内のモデルとなっている点が評価されました。



牧之原市花の会(静岡県牧之原市) 団体部門

市内各所で放置されていた植栽樹を除草し花を植えたことから活動が広がり、現在は31ヶ所(2,155㎡)で花壇づくりがされています。牧之原市花の会の母体は、旧相良町と旧藤原町の両町で活動していた二つの花の会が、2006(平成18)年の町村合併と同時に一つとなり、地域ごとで花壇づくりをし、市内を花や緑でいっぱいしようとする人と人が繋がる活動を展開しています。また、各地域で活動するグループのリーダーはリーダー養成講座で学んだ方が多く、地域間の連携や情報交換もスムーズに行われています。町村合併を経て、二つの花の会をうまくまとめて市全体に花や緑で潤いのある景観づくりに寄与した活動が評価されました。



オープン化粧品株式会社(大阪府吹田市) 企業部門

1953(昭和28)年創業の化粧品や健康食品などの製造販売会社で、バラを女性の象徴として「社花」にしており、2013(平成25)年に創業60周年を記念して本社敷地内に320品種5,500本のローズガーデンを開園しました。関西でもトップクラスのバラ園で、ここでしか見られない品種やオリジナル品種もあります。見頃となる5月の一週間はローズウィークとして一般公開し、期間中は地域の市民団体などと協力、連携してイベントやコンサートなどを開催しています。来場者は年々増加しており、今年は約7,400人が来場しました。一般公開期間後も1ヶ月間は地域に開放しています。近隣大学や市民団体と連携しながらバラを通じて地域の美化、環境づくりと共にコミュニティの活性化に取組む活動が評価されました。



パナソニック洲本園芸部(兵庫県洲本市) 企業部門

工場内や公道に接する外周の緑地に四季折々の草花を咲かせることにより、従業員の心を和ませ、働きがいのある職場づくりと地域との連携を図ることを目的に活動しています。花壇やコンテナには、社員食堂から出る生ごみを堆肥化し、道路瓦の廃材も利用するなど、リサイクルと環境に配慮した取り組みがされています。球根や宿根草を活用し、自家生産苗を地域住民との花苗交換を通して種類を増やすことで、多種類の花が四季を通じて咲くように心がけています。工場近隣の活動拠点となる多目的ホールでは、地域のオープンガーデン開催時に参加者の交流地点となっていることやデイサービスセンターに入所している方の利用も多くなる地域の良い場になっています。花苗をプレゼントするなど花や緑を通じて、潤いのある環境づくりを目指していることが評価されました。



東成瀬村 (秋田県) 市町村部門



会津美里町立本郷小学校 (福島県) 団体部門



社会福祉法人 浦山学園福祉会 小杉西部保育園 (富山県) 団体部門



富山市立四方小学校 (富山県) 団体部門



美和高齢者クラブ連合会 寿会 (茨城県) 団体部門



笠間市立友部中学校 (茨城県) 団体部門



まちづくり宮ノ下地区委員会 (福井県) 団体部門



掛川市立千浜小学校 (静岡県) 団体部門



城里町立石塚小学校 (茨城県) 団体部門



常陸太田市立誉田小学校 (茨城県) 団体部門



裾野市パノラマロードを花でいっぱいにする会 (静岡県) 団体部門



味美町子ども会 (愛知県) 団体部門



東国花の寺 常楽寺 (群馬県) 団体部門



東新井団地花クラブ (埼玉県) 団体部門



関田東高砂会 (愛知県) 団体部門



いきいき刈谷友の会 ガーディング部会 (愛知県) 団体部門



道保川・水と魚に親しむ会 (神奈川県) 団体部門



長岡市立桂小学校 (新潟県) 団体部門



福地南部小学校コミュニティ推進協議会 (愛知県) 団体部門



がまごおり花フル会 (愛知県) 団体部門



西高倉老人すこやかクラブ (三重県)

団体部門



美里ヶ丘 花サークル (三重県)

団体部門



NPO 法人 あわじ緑花協会 (兵庫県)

団体部門



ガーデン刈尾 (兵庫県)

団体部門



桜花台花と緑の会 (三重県)

団体部門



泉大津緑化ボランティア協議会 (大阪府)

団体部門



フラワーリーダー8期生 (兵庫県)

団体部門



鶯野中町花家族の会 (兵庫県)

団体部門



すみれ・花フレンズ (大阪府)

団体部門



環境とフラワーロード (大阪府)

団体部門



芦屋山手 Green ねっと (兵庫県)

団体部門



名塩さくら台景観緑化クラブ (兵庫県)

団体部門



希望の開拓菊サロン (大阪府)

団体部門



城東区はなびとコスモスタッフの会の
花と緑のまちづくり活動 (大阪府)

団体部門



NPO 法人 にじのかけ橋 (兵庫県)

団体部門



西宮フルーツ・フラワー研究会 (兵庫県)

団体部門



城北川花いっぱいプロジェクト (大阪府)

団体部門



交野市花と緑の会 いびき (大阪府)

団体部門



吉田病院 平和会健康友の会
グリーンボランティア あそびによし奈良 Garden Link (奈良県)

団体部門



寺崎 啓乃 (富山県)

個人部門



藤田 幸一 (三重県) 個人部門



吉永 知英子 (三重県) 個人部門



太田 よしの (兵庫県) 個人部門



鈴木 くみ (兵庫県) 個人部門



尾花 幸雄 (兵庫県) 個人部門



諏訪 早苗 (兵庫県) 個人部門



中谷 邦子 (兵庫県) 個人部門



末松 和佳子 (兵庫県) 個人部門



奥川 きみ子 (兵庫県) 個人部門



高木 繁嘉 (兵庫県) 個人部門



居場 英則 (奈良県) 個人部門



小栗 民子 (高知県) 個人部門



滝川学習塾 大平台校 (静岡県) 企業部門



株式会社ホテルサンバレー (静岡県) 企業部門



NPO法人 EPO (静岡県) 企業部門



まごころでい藤枝南 (静岡県) 団体部門

四葉賞

第27回 全国花のまちづくりコンクール 努力賞

若葉賞



フラワーロード中道 (秋田県) 団体部門



村田 のり子 (石川県) 個人部門



瀬野川さくらさくら管理推進委員会 (広島県) 団体部門



篠原医院 (静岡県) 企業部門

花のまちづくりとは

考え方

私たちは、これまでの物質的な豊かさを求めた生活を問い直し、ゆとりや安らぎを実感できる、精神的に充実した質の高い生活のあり方を模索してきました。国際花と緑の博覧会の開催を契機に、その基本理念「自然と人間との共生」を継承し、それを発展させるために花のまちづくりコンクールが翌年から実施されました。

開始以来、ガーデニングの広がりに見られるように、花や緑は生活の中でより身近なものとなりました。花の美しさや緑の素晴らしさをともに感じ合い、環境との調和を心がける「花のまちづくり」が広く実践されつつあります。

「花のまちづくり」は、人と花や緑が、また花を

めぐり人と人が互いに影響しあって、家庭や公共の場で、美的なセンスを磨き、花を介した交流を活発に行ない、生き生きとした美しく心地よい地域をつくっていくものです。また、花や緑をいかして周辺環境、身近な自然を大切にすることは、地域の社会的、歴史的、文化的な資産を次世代に引き継ぐこととなります。このような取り組みは、コミュニティの活性化や観光など地場産業の振興などにも結びつきます。

したがって、「花のまちづくり」は地域に望ましい循環型の社会を築き、生活環境の改善を進めることで、住民の生活の質を一層高めていくことを目指しています。

進め方

花のまちづくりを進めるにあたっては、住民（団体、企業を含む）と行政が力を合わせ、互いに役割を分担して地域の条件に合った独自のやり方で行うことが望まれます。

これは住民のだれでもが参加できる楽しい活動です。その原点は、一人ひとりが地域社会に対して誇りと責任を持って自分たちの身の回りをきれいにし、美しい景観を共有しようとするものです。次の世代を担う子どもたちが参加す

ることにより、子供たちの心に自主性や協調性、自信、地域への愛着心が育つことが期待されます。これらを通じて人々の信頼感や連帯感が増し、コミュニティの活動によって地域がいきいきと活性化されるでしょう。

また、行政は住民の主体的な活動を積極的に支援し、花のまちづくりの普及・啓発や公共の空間での花を活用した整備などの展開が求められます。

コンクールの役割

1) 優れた活動を育てる

応募することで、応募者が自分たちの取り組みを自ら点検し、よい自己学習の機会となるようフォローアップを充実し、多くの優れた花のまちづくりの活動を全国各地に育てていくコンクールです。

2) 花の社会性の向上

花の栽培技術や花壇デザインを評価することにとどまらず、花を用いて地域の文化や身近な自然を大切にして、地域の活性化も図ることなどによって、花が一層美しく映えるまちづくりの取り組みなど、花の社会性を評価するコンクールです。

「機械を買って
もらいたいのではない。
チームを買って
もらいたいのだ。」



KOMATSU Dump Truck 930E KOMATSU MINING Hybrid Shovel 2650CX

人のための
道具だから。
社会のための
道具だから。

まるで2頭の恐竜のようだと思った。アメリカアリゾナ州の銅鉱山。鋼鉄の手が、鋭い爪を土の壁に突き立てる。ひとすくい60トン。実に4トントラック15台分の土をダンプトラックに載せていく。高さ20メートル近い「シヨベル」と積載量300トンを誇る「ダンプトラック」。どちらが欠けても鉱山の仕事は進まない。

だが数ヶ月前まで、2台は別の会社の機械であった。アメリカのジョイ・グローバル社とトウキョウのコマツ。2つの会社がひとつになり、コマツマイニングがスタートした。「一つになることで、弱みはなくなり、強みは何倍にもなりました」。ミルウオーキーから来た女性の責任者が教えてくれた。ジョイ・グローバル社は超大型積込機のシヨベルとともに、地下に横穴を掘っていく「坑内掘り」用の鉱山機械をつくってきた。超大型ダンプトラックなどを得意とするコマツとは互いを補うカタチでのパートナーシップになる。

交代の時刻になったようだ。オペレーターが、10メートル上の運転席から地上へと降りてきた。鉱山に常駐するコマツマイニングのメカニックにとっては、彼らと会話を交わすことが重要な仕事のひとつである。現場の生の声は、メンテナンスに反映されるだけでなく、本社にも届けられ次の開発にフィードバックされていく。「僕らは機械だけを提供しているんじゃない。メカニックを含めたチームを提供しているんです」。そう誇らしげに語る言葉が、印象的だった。

Global Teamwork
KOMATSU

コマツ
〒107-8414 東京都港区赤坂 2-3-6
FAX 03-3505-9662
<https://home.komatsu/jp/>